

上尾 歴史散歩

236 上尾の古い地名を

「江戸素麺問屋との取引村を歩く」 ～壺丁目～

「ぐるっとくん」を「こどもの城」で下車し、百メートルほど南下すると市民体育館通りとなる。右折して西下するが、道路に沿った北側に製菓会社の広大な運動場があり、この辺りは旧壺丁目村の小字「上原」である。明治初年の資料によると壺丁目村の小字は七つで、上原はその中の一つである。またその資料には村の北方に二十四町歩(約二十四ヘクタール)余りの山林があり、この広大な山林の中に上原は含まれていたとみられる。同村は村の東南方にも五町歩余りの山林があるので、上尾市域の中でも山林の多い村であったことになる(『武蔵国郡村誌』)。

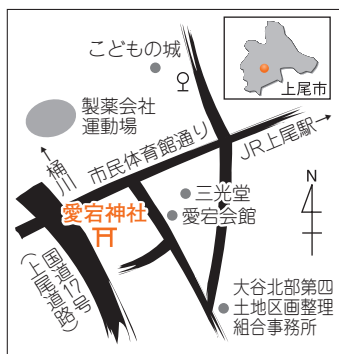
市民体育館通りを三百五十メートルほど歩くと、新設の国道17号(上尾道路)と交差する。左折して国道の側道を四十メートルも歩くと、左手に新築した社が見える。これが「見世棚造」と「赤子の床下くぐり」で知られた、壺丁目村の愛宕神社である。上尾道路の開通に伴い、かつての広大な境内地と鎮守の森は失われ、神社の建物が新築され境内地も整備されているので、



鳥居越しに本殿を望む(愛宕神社)

昔日の面影をしのぶことはできない。ここでは新しい社に参拝し、集められている石造物などを拝観することとする(『愛宕神社(壺丁目)調査報告書』)。

愛宕神社前の参道を東へ七メートルも歩くと、地区を南北に縦断する道路に出合う。この道路を右折して三十メートルも歩くと、地区公民館の愛宕会館と三光堂が左手に見える。上尾道路の開通で古くからの南北縦断道はすっかり変容したが、この道路は明治初期には、「鴻巣より大宮への通路」と記されているものである。そして江戸末期資料で、「小名宿次、昔松山ヨリノ馬次(継)アリシ所」と記された所と同一ともみられる。現在では大変細い一筋の



道路であるが、古くから所在した歴史のある道路というところになる(『前掲書・『新編武蔵風土記稿』)。

壺丁目地区は、江戸時代に手広く素麺を取引した郷商人の居住地として知られる。近世の埼玉県域でも小川町が素麺産地として知られているが、上尾市域で取り扱った商人がいたことは大変珍しいことである。取り扱った郷商人は堀江氏であるが、天保十(一八三九)年から翌年にわたる平方河岸から江戸への積み出し記録を残している。取引相手は江戸の素麺問屋で、素麺の商品銘柄や積み出し数も明確に記されている。素麺の産地は不明であるが、大量の取引をしていた郷商人が活躍していたことが注目される(『壺丁目村文書』)。

(元埼玉県立博物館長・黒須茂)

わくわくクイズ

○に入る文字や数字を当ててください。

ことしから「あげお祭り」は
「あげお○○○」に名称が変わります。

(ヒントは3ページ)

【賞品】 正解者の中から抽選で5人に、粗品を差し上げます。

【応募方法】 はがきかメールにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、『広報あげお』の感想を記入して、11月19日(金)まで(必着)に上尾市広報課「わくわくクイズ係」へ。

あて先: 〒362-8501本町3-1-1
メールアドレス: s55000@city.ageo.lg.jp

【発表】 賞品の発送をもって発表に代えさせていただきます。 ※正解は12月号のこのコーナーで。前号の答えは「図書館」でした。ご応募ありがとうございます(応募者42人)。

市の人口・世帯

(平成22年10月1日現在)

22万7,074人

男/11万3,610人
女/11万3,464人

※前月より40人増。

9万2,104世帯

◆「広報あげお」は、各支所・出張所、JR上尾駅・北上尾駅のほか市内の各公共施設、金融機関などに置いてあり、自由に持ち帰れます。
◆環境保全のため、市内の公共施設へのお出掛けは市内循環バス「ぐるっとくん」をご利用ください。